スポーツ推進委員だより

座間市スポーツ推進委員協議会

第　59　号

発行日　令和３年３月１５日
編　　集　座間市スポーツ推進委員協議会
発　　行　座間市健康部スポーツ課
住　　所　〒２５２－８５６６
　　座間市緑ケ丘１－１－１
電　　話　０４６－２５２－８１７７
ＦＡＸ　０４６－２５５－３５５０

新正副会長ご挨拶

会長　橋本　武（はしもと　たけし）

この度、会長を務めさせていただくこととなりました。座間市民の皆様の健康増進を常に考えておられた大矢秀子前会長から引継ぎ、頑張ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

本来であれば、オリンピックイヤーで盛り上がる1年でしたが、残念ながら、新型コロナウイルスの感染拡大によって、座間市のスポーツ推進委員の活動は未だ何もできていません。新任委員さんとも会えず、大変厳しい日々となってしまいました。次年度は何から始められるか、今は見当もつきません。しかし、その時が来たら、また市民の皆さんには思い切り体を動かし、スポーツを通して心豊かな日々を過ごしてもらえるよう、お手伝いさせていただきます。

副会長　波多野　啓子（はたの　けいこ）

今年度副会長に選任され大変光栄に思っております。スポーツ推進委員３０年、昨年は事業が全て中止という初めての経験でした。

２０２１年はコロナ禍でも出来る事（ＷＥＢ会議、Ｎ.スポーツの動画配信等）を工夫し事業に向けパイプ役に努めて行きたいと思いますのでよろしくお願い致します。

副会長　有山　周一（ありやま　しゅういち）

副会長としては、二期目に入りました。そして、人生の半分がスポーツ推進委員になりました。こんなに長く続けることができたのは、この会と、会の活動が本当に楽しかったからです。これからも増々、楽しいことをするスポーツ推進委員協議会にしてまいります。

新任委員自己紹介

New Face!

藤井　義文（ふじい　よしふみ）

この度、座間ゴルフ協会の推薦を受け、スポーツ推進委員をさせていただく藤井義文と申します。スポーツ大好きな高齢者です。中でもゴルフが1番です、年間１００ラウンドを目指し体力維持に努めています。皆様のお役に立てるよう頑張っていきます、どうぞよろしくお願いいたします。

田部　佐千子（たべ　さちこ）

この度、市の推薦を受けましてスポーツ推進委員を務めさせて頂きます田部佐千子です。宮崎県出身で現在は、相模原市に住んでおります。もともと身体を動かすことは大好きで最近は、週に2、3回体育館で卓球の練習に励んでおります。どうぞよろしくお願い致します。

田附　裕治（たづけ　ゆうじ）

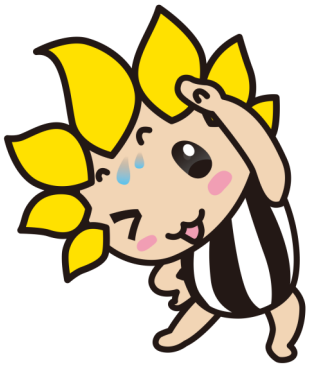
本年度、推進委員を仰せつかりました田附（たづけ）と申します。今年度より座間市中学校体育連盟の会長を務めております。

コロナ禍にあって中体連の事業もままならない状況ですが、本協議会の事業も早く正常に戻ることを祈るばかりです。

那須　金吾（なす　きんご）

令和２年度から座間市スポーツ推進委員を務めさせていただいています。

コロナウイルスの影響で充分にスポーツ活動がしにくくなっておりますが、スポーツのすばらしさを皆で分かち合えることを考えていきたいです。



花城　愛子（はなしろ　あいこ）

この度、市の推薦を受けてスポーツ推進委員となりました。日頃からランニングや筋トレを行なっており、身体を動かすことが大好きです。今後、座間市のスポーツの振興に寄与できるよう努めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

小林　匂未（こばやし　くみ）

私は、入谷の田んぼや公園で走り回り育ってきたざまっ子です。現在は、生まれ育ったこの地で、中学校教諭として保健体育を教えています。

推進委員の活動を通して、年齢問わず、市民のみなさんが楽しく運動・スポーツができるよう努めていきます。コロナウイルスに打ち勝つ強い体を一緒に作っていきましょう！

小林　真（こばやし　まこと）

この度、スポーツ推進委員として委託を受けました小林真と申します。

スポーツ推進委員として、市民の皆様と共に関わり合いながらスポーツの楽しさを伝えていきたいと思っています。

よろしくお願いします。

退任された委員

大矢　秀子　委員（委員歴４１年）
近山　光代　委員（委員歴３３年）
河原　信子　委員（委員歴２７年）
下山　康代　委員（委員歴２３年）
倉前　玲子　委員（委員歴１３年）
木村　章仁　委員（委員歴　８年）
山本　広美　委員（委員歴　６年）
大沢奈緒美　委員（委員歴　２年）
松本　光雄　委員（委員歴１１カ月）

編集後記

ＪＯＣの山下泰裕会長が、柔道無差別級で金メダルを手にしたロスオリンピック。決勝の前に右足に大ケガをします。相手のラシュアン選手は２ｍ近い巨漢。誰の目にも、ラシュアン選手の優勢は明らかでした。しかし、彼は、山下選手の右足を責めることなく敗れます。「なぜ右足を責めなかったのか。」との質問に、彼は答えます。「確かに、ケガをした足を責めれば優勝できたかもしれない。しかし、それをしてはいけないということを、柔道が教えてくれたんだ。」。見事なスポーツマンシップです。見る者に感動を与えてくれる、そんなスポーツが制限されて一年が経ちました。そして、この一年間のコロナとの生活が教えてくれたことは、人が集まること、触れ合うこと、大きな声で笑うこと、そんなことが、とても、とても大切なことであったということ。そんな大切な日々を取り戻すまで、あと少しの辛抱ですね。

編集担当（総務部）
有山 周一・高橋 廣・大矢 一雄
依田 玄基・春木 祐子・野村 みさを
伊牟田 健人・松﨑 佳子
田附 裕治・花城 愛子・小林 真